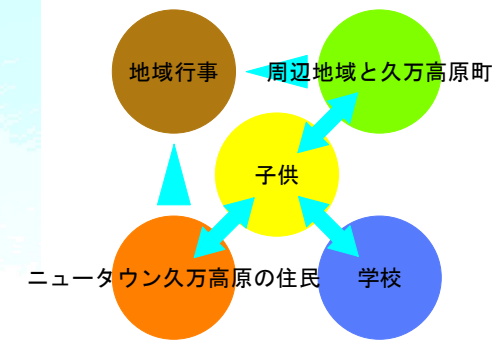
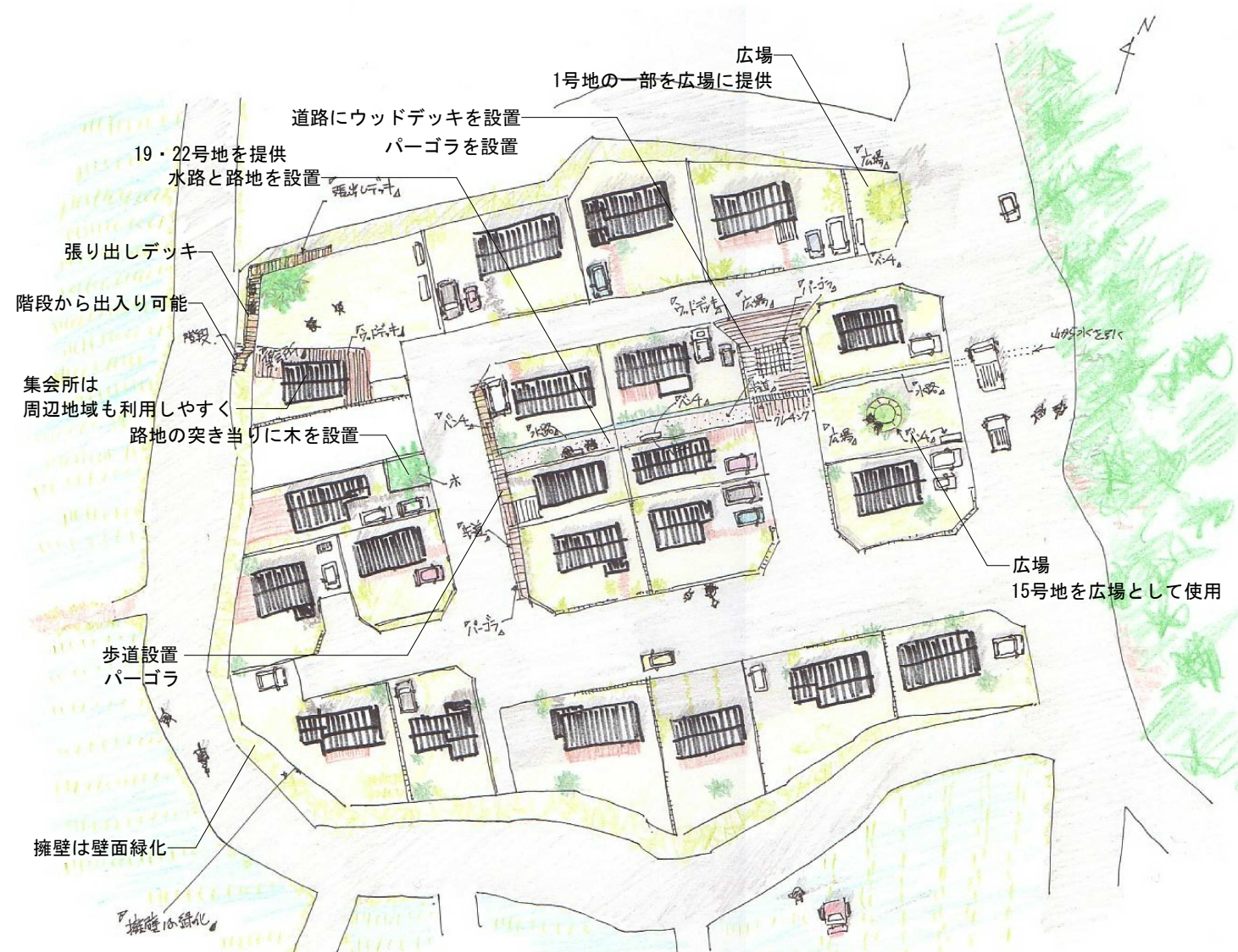


ニュータウン久万高原のコミュニティ形成についての提案

2014. 1. 13 伊藤建築設計室二級建築士事務所



子供の学校での体験学習等を通じて、農業・林業施設や地域農業・林業との交流を行う。広場と集会所が活動の場として利用される。



ニュータウン久万高原は、久万高原町外からの移住・定住を目的として分譲され、住民には地域行事や活動に積極的に協力することを求めています。ニュータウン久万高原が、周辺地域及び久万高原町とどのようにコミュニティを形成していくか。住民からのアプローチに頼るだけでなく、ニュータウン久万高原そのものの環境が地域との交流を誘導していくようにするためには、どのような環が望ましいか。既に宅地造成が完了し分譲中ですので、現在の造成地形態の中で計画を行いました。



地域住民が出入りできるように集会所の活用
周辺環境と一体感・連続性をいかにして創り出すか。



広場を使って、たとえば周辺地域の田畑で採れた農作物を販売する。地域住民とニュータウン久万高原の住民との交流が生まれる。



集会所は、交流活動の場として活用。周辺地域の農業・林業の体験学習の後に利用したり、地域行事の場に。



■コミュニティを形成するための変更

■コミュニティを形成するための考え方 (ニュータウン久万高原と周辺地域とのコミュニティ形成)



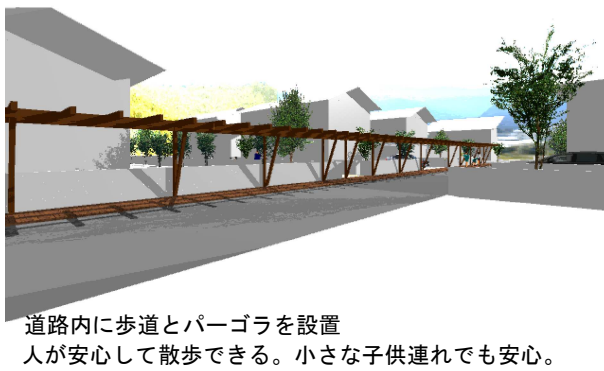
広場を設置することで、周辺地域の人たちがニュータウン久万高原の中に入りやすくする。奥まで見通せる。



ニュータウン久万高原の住民だけでなく、周辺地域の人たちも利用できる広場。ウッドデッキを道路に設置することで、自動車の通り抜けはできませんが、道路空間が通行以外の空間として使える

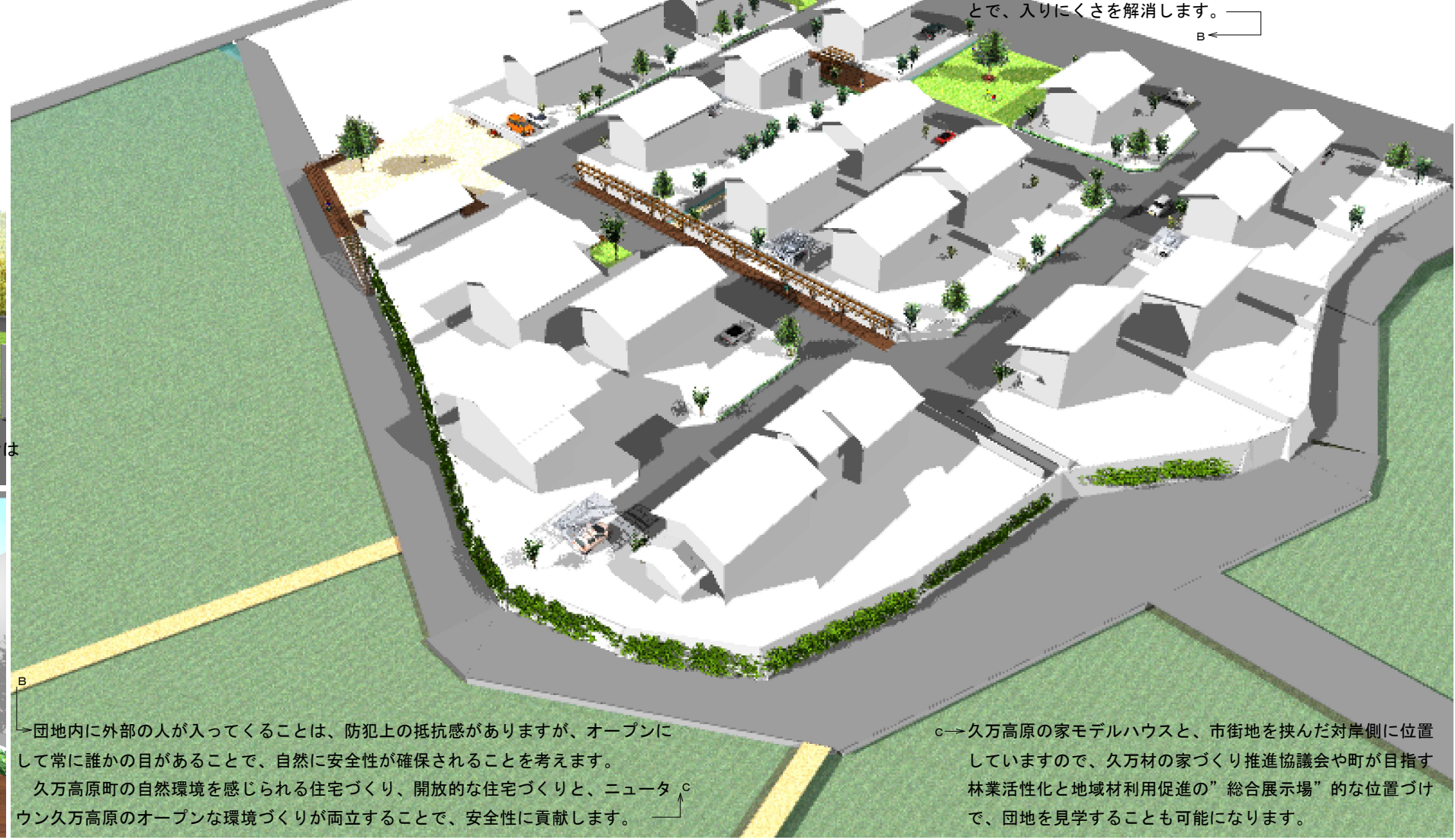


道路に設置したウッドデッキとパーゴラ



道路内に歩道とパーゴラを設置人が安心して散歩できる。小さな子供連れでも安心。

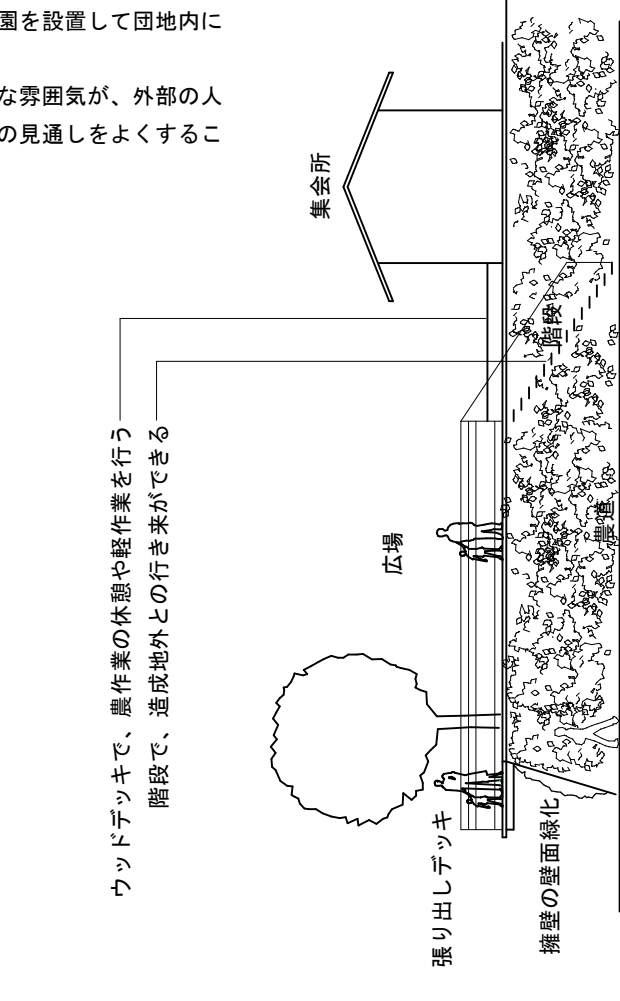
ニュータウン久万高原のコミュニティ形成は、子供たちの学校生活での体験学習や地域行事を通じて、ニュータウン久万高原の住民と地域住民・久万高原町住民の交流がおこなわれることを考えています。
子供たちは、ニュータウン久万高原に住む子供だけでなく、久万高原町の学校に通う子供たちも当てはまります。
ニュータウン久万高原の立地と、農業・林業がおこなわれる場所との関係から、この場所が中継地として持つべき場所だと思えるような環境づくりが必要です。



→ 団地内に外部の人が入ってくることは、防犯上の抵抗感がありますが、オープンにして常に誰かの目があることで、自然に安全性が確保されることを考えます。
久万高原町の自然環境を感じられる住宅づくり、開放的な住宅づくりと、ニュータウン久万高原のオープンな環境づくりが両立することで、安全性に貢献します。

A → 集会所前に久万高原中心地が一望できる張り出しデッキをつくることで、ニュータウン久万高原の外に住んでいる人たちもよってみたい（行ってみたい）と思わせます。外から入りやすい団地づくりを行います。
ニュータウン久万高原への出入り口になる道路に面して、公園を設置して団地内に入りやすい雰囲気をつくります。
これまであちこちに見られる団地は、整然と並んだ住宅と静かな雰囲気が、外部の人が入りにくさを感じる要因でした。間口を開くことで、団地内の見通しをよくすることで、入りにくさを解消します。

○ → 久万高原の家モデルハウスと、市街地を挟んだ対岸側に位置していますので、久万材の家づくり推進協議会や町が目指す林業活性化と地域材利用促進の”総合展示場”的な位置づけで、団地を見学することも可能になります。



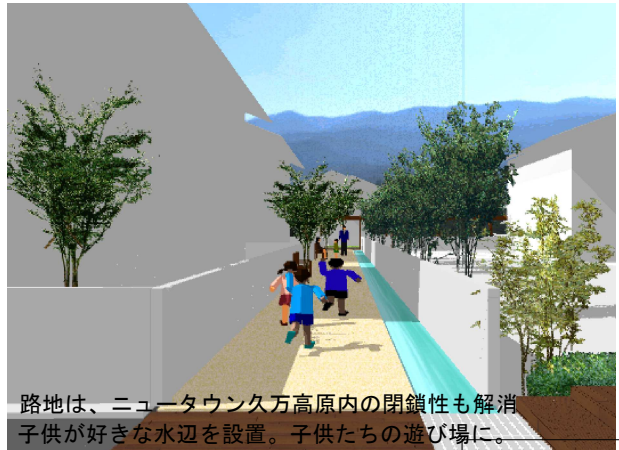
ウッドデッキで、農作業の休憩や軽作業を行う階段で、造成地外との行き来ができる



ニュータウン久万高原の中を歩くイメージ動画で確認ができます。
URL
http://youtu.be/m_E36ekqsDg



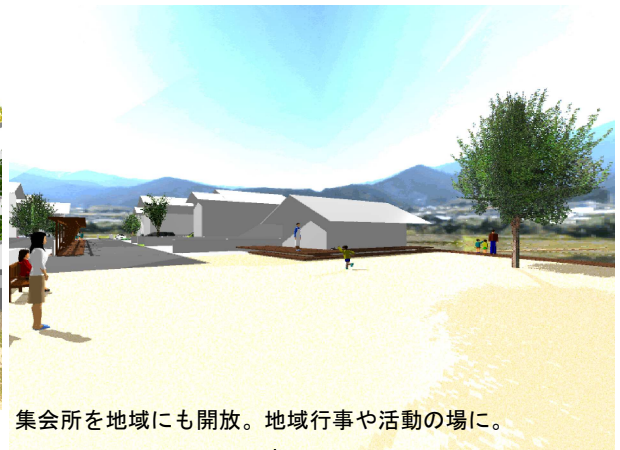
歩道と路地で人と自動車の動線を分離



路地は、ニュータウン久万高原内の閉鎖性も解消子供が好きな水辺を設置。子供たちの遊び場に。



絶好のロケーションを活かす張り出しデッキ。久万高原町の環境を満喫できる。周辺住民も、来たくような雰囲気。擁壁は壁面緑化して、周辺環境に配慮。



集会所を地域にも開放。地域行事や活動の場に。

